

# 公益財団法人 公害地域再生センター(あおぞら財団)

## 2013(平成25)年度 事業報告書

### I. 2013年度の総括

あおぞら財団は、2013年度から第5次事業計画(3カ年計画)をスタートさせたが、計画実施にあたって、次の基本的方向性を確認している。

第1は、2011年3月に発生した東日本大震災を引き続き踏まえた活動を行うことである。具体的には、環境再生・地域再生を目指す財団として、エネルギー問題や各地域における防災対策とコミュニティづくり、被災地の復興支援などを重視することであり、こうした課題に真摯に向き合い、新たな取組みを積み上げていくことである。

第2は、近時、中国における大気汚染問題が深刻化しており、従来以上に、日本の公害経験、その対策、財団における諸々の環境活動を活かした交流を進めることである。

第3は、財団の5分野の活動、重点事業の取組にあたっては、財団全体としての発信力を高め、ネットワークを活用していくことで事業の実現を図っていくことである。

第4は、活動を持続的に発展させていくためにも、賛助会員の拡大、寄付金の増大は不可欠であり、そのための方策を積極的に実施していくことである。

2013年度は、上記の第5次事業計画の第1年度として、様々な取り組みを行ってきた。

まず、地域づくりの取り組みとしては、防災まちづくりにおいて、西淀川区・要援護者支援事業プロポーザル業務を、他の関連事業とも連携させながら取り組み、菜の花プロジェクトから始める地域循環型社会への取り組みや地域交流スペース「あおぞらイコバ」の積極的な利用などを行った。

資料館の取り組みでは、公害資料の保存・整理とともに、環境省の地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業として、公害資料館連携フォーラムを開催するなど新たな取り組みを行った。

環境教育の分野では、引き続き、区内の小中学校などでの公害・環境教育の支援、未就学児の環境教育プログラムづくりなどに取り組み、従来から行ってきたハゼ釣り大会は、区内の団体と実行委員会を作ったの取り組みに発展させた。

環境保健では、呼吸器ハビリの普及やそのための地域でのネットワークづくりに取り組んだ。

国際交流では、中国環境NGOとの交流を中心に、研修事業の実施や日中環境サロンの開催などを行った。

依然として、厳しい財政状況への対応が続いているが、2013年度は、広く事業を実施したことなどによって、事業収入を増やすことができ、基金からの取り崩しが数年ぶりに改善された。また、基本財産を運用していた仕組み債を処分したことから基本財産の減少が現実化した。その一方で、新たに確実な運用に取り組んでいる。

全体として、2013年度は、困難な事情を抱えながらも、新たな事業に取り組むなど積極的な取り組みを行い、貴重な成果をあげた1年であったと総括できる。なお、2014年度はじめから、2名の職員の採用を行った。

## II. 個別事業

### 1. 公害のない住みよい地域づくりを進める活動(地域づくり)

#### 1) 西淀川再生プロジェクト

##### (1) 西淀川における「人にも環境にもやさしい地域交通まちづくり」の推進

###### ① 西淀川道路検討会・道路連絡会を通じた取り組み

- 道路検討会(10月29日)、第17回西淀川道路連絡会(12月4日)を開催し、PM2.5対策、大型車削減、歌島橋交差点問題などについて検討する。

###### ② 持続可能な社会づくりのための協働イノベーションに関する調査・研究

- 大阪大学大学院法学研究科大久保規子教授等が中心となって進めている「持続可能な社会づくりのための協働イノベーション～日本におけるオフィス3原則の実現：グリーンアクセスプロジェクト」に関する研究に協力(合同シンポ『世界と日本の市民参加～見えない力を見えるように～』を開催12/6)。

##### (2) 防災まちづくりの推進

- 西淀川地域をはじめ、各地区の多様な主体と協働で、あおぞら財団のネットワークやセンター機能を活かした防災まちづくりを進める。
- 「高齢者の災害記憶の収集と活用」をテーマに聞き取り、アンケート、小冊子の作成・配布、展示・報告会など(JR西日本あんしん社会財団助成金)
- 「見守りから始める要援護者支援プログラム事業」を明石市・堺市・大阪市西区のNPOと連携して実施(WAM2013助成事業)
- 西淀川区・要援護者支援事業プロポーザル業務を受託・実施。

##### (3) 西淀川からの「環境住宅」発信プロジェクトの推進

- 西淀川から住まいと暮らしを考える環境住宅研究会(Green)の取り組みを通じ、区内居住環境の把握、「環境住宅」の実践・発信を行なう。
- これまで改修してきた建物、協力が得られたギャラリーなどを会場として、みてアート(御幣島芸術祭)を12月21日・22日に開催。
- 「姫里の家」を7月にオープン(一戸建てをゲストハウス+地域の交流の場として活用。管理担当者1名、インターン生が宿泊)
- 「野里の庭」として、5月より、個人の庭を借りて、農作業を行う試みを実施。(ただし、諸事情により、9月で撤収。今後の進め方については要検討)
- 平成25年度は、マルモット(新聞配達所)事務所の改修工事を実施。

##### (4) 菜の花プロジェクトから始める地域循環型社会への取り組み

- エコでつながる西淀川オリジナルラベルの廃油ハンドソープを、区内の学校教育機関に配布。設置を希望した小学校15校、中学校3校、高校3校、専門学校1校、回収拠点50箇所に配布し、活用をよびかける。
- エコでつながる西淀川全体会議を4回開催(4/11、7/23、10/9、3/24)。
- 菜の花栽培については、菜の花プロジェクト箕面の協力で『エコでつながる西淀川 菜種だっこ体験ツアー』(6/8 参加者30人 子どもゆめ基金助成事業)の実施や、『尼海の会』の菜種まきに参加するなど他団体と連携しすすめた。西淀川区内については、区役所『憩いの花壇』事業に協力し大野川緑陰道路で菜の花を栽培した。現在、畑を借りられる土地を探しているところである。
- 『西淀川区クリーンにしてグリーンなまちづくり推進会議』に公募委員として参加。
- 廃油回収量は2013年度は6,858ℓ。(2012年度は6,088ℓ)回収拠点は事業所の閉店などで59箇所から56箇所に減少したが、回収量は増加。地域での浸透が考えられる。
- 廃油キャンドルナイトを12月22日に開催。大学生が主体となり企画・運営(来場者約400名)。他団体の出展協力も得た。

##### (5) 地域交流スペース「あおぞらイコバ」の活用

- 月1回のあおぞら野菜市や自転車試乗会、月2回の英語サークル、月3回のフルート教室の利用が定着し、その他、単発で会議や打ち合わせの利用が増えて

きている。利用が増えることによって、今まであおぞら財団とかかわりのなかった人に財団の存在を知らせる機会となっている。

- 今後はさらに利用増加をめざして、チラシを作成・配布するなどして、貸スペースとしてのアピールを広くおこなっていくことが課題である。

## **(6)西淀川地域におけるまちづくり活動の支援**

- 地域福祉アクションプラン推進事業、NPO 法人西淀川子どもセンター、西淀川区政会議など、西淀川地域における諸々の活動への支援を行なった。

## **2)地域交通まちづくりの推進**

### **(1)自転車を活かしたまちづくりの推進**

- 自転車文化タウンづくりの会事務局として、御堂筋サイクルピクニック(4/14、9/22)等を実施。
- 「大阪でタンデム自転車を楽しむ会」との連携により、タンデム自転車体験会の開催協力など、視覚障害者をはじめ誰でも自転車を楽しめる環境づくりに取り組む。
- 中央区D oプラン事業の実施(株式会社都市空間企画研究所/中央区役所)

### **(2)エコドライブの普及**

- トラック協会、池田市と共催で「サイクル&エコカーニバル 2013in 池田」を実施(11月3日、宣真高等学校)。

## **3)地域で取り組む交通まちづくりの支援(人材育成、情報発信など)**

### **(1)道路交通環境市民塾の記録集発行、講座の開催**

- 市民塾記録集原稿をHPで公開 準備中。
- 環境フロンティア講座の交通まちづくり部門として新講座を開催(6/29 総論編、バス編、7/5 自転車編、8/24LRT編。参加者全回あわせ述べ58人)。

### **(2)参加型アセスメント講座の開催**

- 昨年度に採択された環境再生保全機構より環境保全戦略講座(環境アセスメント分野)の募集が今年度は募集が無かった。

### **(3)講座の企画・運営、講師・アドバイザー派遣、コンサルティング**

- 徳島市環境リーダー推進事業(徳島市)の企画・運営をサポート。
- 東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会の委員(藤江)として参加。
- ECOまちネットワーク・よどがわ(事務局:大阪経済大学)の団体会員として企画・運営に協力。

## 2. 資料館の運営とネットワークづくり(資料館)

### 1) 「西淀川・公害と環境資料館」の日常業務の充実

#### (1) 資料の保存・整理(目録の整備)

- ・ アルバイトの体制を整え、未整理の資料を着実に整理した。

2013年度に整理した資料

西淀川公害患者と家族の会資料

西淀川公害患者と家族の会会報『青空』

井上善雄弁護士資料

芹沢芳郎資料

大阪から公害をなくす会

2013年3月17日現在 目録総数 50267点

2013年整理総数 8425点

#### (2) 資料館の情報提供、視察受入、展示

- ・ 資料館見学・研修の受け入れ実施を沢山の人に知ってもらい、公害・環境問題に関する情報提供につとめた。

2013年度来館者 369人 開館以来通算 3795人

#### <主な受け入れ先>

4月3日	淀協新人研修	25人
4月4日	ミャンマー留学生(神戸大)	4人
4月6日	JICA中国	15人
4月22日	JICAモザンビーク	10人
6月8日	大阪大未来共生イノベーター	20人
6月16日	大阪大未来共生イノベーター	20人
7月12日	大阪狭山氏熟年生き生き実行委員会	13人
7月14日	立命館大学アメリカ交換留学生	32人
8月10日	教育科学研究会	10人
8月29日	関西学院大学生	2人
8月30日	四日市市	2人
9月2日3日	京都精華大学	10人
9月7日	東京農業大学	12人
9月27日	矢作正氏	1人
10月29日	司法修習生研修	15人
11月15日	龍谷大学清水ゼミ	15人
11月22日	阪南大学大野ゼミ	5人
11月22日	大阪経済大学柏原ゼミ	6人
11月25日	トトロ基金	2人
12月13日	龍谷大学清水ゼミ	14人
12月27日	香港YMCA大学生	20人
1月21日～26日	中国環境NGO	8人
2月20日21日	東京学芸大学原子ゼミ	10人
2月26日27日	環境省職員研修	12人

- ・ 資料館の利用日は原則、毎週月曜日と金曜日の10:00～17:00と定め、スタッフおよびボランティアがレファレンスに対応した。

#### (3) 資料館の運営体制の確立

- ・ 毎月1回、小田康徳館長と担当職員による資料館定例会議を継続する。定例

会議では、資料館の活動全般の検討、必要な規程の策定などをおこなった。

- ・ 歴史研究者や資料館・博物館等の専門家からなる運営協議会を設置し、専門的な立場からのアドバイスや協力を得られるような体制を継続した。
- ・ 積極的に寄付集めをおこない、資料館の運営のための資金を増やすことに努力した。

#### (4) 広報活動（資料館だより、ウェブサイト）

- ・ 資料整理から得られた知見や、館の活動などを『資料館だより』（年4回発行 A4版両面印刷）やホームページ、ブログ等を通じて発信した。

NO. 44（2013年5月）モザンビークから研修で来日

NO. 45（2013年8月）都市型インタープリテーション講座

NO. 46（2013年11月）おもしろいわ西淀川FBページはじめました

NO. 47（2014年2月）公害資料館連携フォーラム

#### (5) 研究

- ・ 資料館の資料を利用する研究に協力し、公害問題の研究を進める
- 西淀川公害患者と家族の会が進める西淀川公害反対運動の研究に協力した。  
2013年3月に出版した『西淀川公害の40年』を読む会を開催（2013年5月19日）し、西淀川公害患者と家族の会と研究成果を共有した。

#### (6) 西淀川地域での活動

西淀川図書館にて

10月26日に郷土史講演会

3月19日から「おもしろいわ西淀川」の展示を開催した。

## 2) 公害地域の現在を知る、情報を集める、伝える

### (1) 情報発信

- ・ 環境再生保全機構のホームページで2010年度に作成した「記録で見る大気汚染と裁判」の情報を更新する。四日市と倉敷（水島）の公害資料整理に関する情報についても可能な部分から同ホームページで公開した。  
2014年春に環境再生保全機構のホームページで公開  
<http://nihon-taikiosen.erca.go.jp/taiki/>
- ・ スタディツアーの経験を書籍化して発信することを検討した。

### (2) 西淀川でのフィールドワーク環境整備

- ・ 視察メニューを整備し、配布資料や現地での説明、ホームページで情報の公開などを行った。  
5月25日26日 インタープリター研修

## 3) 西淀川地域の記録の収集

### (1) 語り合う場をつくる

- ・ 地域ごとにカフェを開き、語り合う場をつくり、西淀川の地域の人たちから、公害や地域の記憶をあつめた。  
4月22日 体験漁業  
5月27日 佃でみせ パート2  
2月2日 大和田でみせ（イスラム マスジド訪問）

- ・ 西淀川の災害記憶を学ぶ に協力  
ジェーン台風および第二室戸台風の被災状況のヒアリング協力

## (2) 発信する

- ・ 地域で集めた情報を基に、ニュースレターとホームページを作り、地域へ広げていく。  
『おもろいわ 西淀川』完成  
ホームページ <http://aozora.or.jp/omoroowa/>  
おもろいわ西淀川フェイスブックを開設

## 4) ネットワークづくり

### (1) 他の資料所蔵機関等との連携

- ・ 大阪の歴史史料の活用促進を目指す桃山学院大学の地域資料研究会に協力した。  
<http://historyosaka.jp> (大阪歴史資料NAVI)
- ・ 公害問題資料を所蔵する各地の団体との連携をはじめ、西淀川図書館や大阪人権博物館、大阪歴史博物館など公の機関との情報交換など、さまざまな団体や機関との連携を図った。

### (2) 公害資料館との連携

- ・ 環境省平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業の全国事業として公害資料館の連携を行った。12月7日～8日に新潟に公害資料館連携フォーラム開催し、94名の参加者が集い、資料館連携ネットワークの設立を確認した。
- ・ 資料館ネットワークに先立ち、各地のヒアリングを行い、記録集にまとめて情報を共有した。

### 3. 公害の経験や地域資源を活かし、環境まちづくりの担い手育成(環境学習)

#### (1) 西淀川でとりくむ公害・環境学習

##### ①西淀川公害をわかりやすく学習するお手伝い

- 西淀川区内の小学校全職員に、西淀川公害語り部の授業のチラシを配布、校長会等で授業。
- 小学校5年生を対象にした公害の授業は、天野氏による公害の授業は出来島、姫島、福、姫里、姫島、川北小学校で、公害患者による語り部の授業は姫島、出来島、佃西小で実施。

##### ②学校等、教育機関ですすめる環境学習の取組みを支援

- 小学校校長会の幹事校長、歌島小学校校長と相談。校長会であおぞら財団の活動紹介(9/18)。
- 大阪市立福小学校から相談を受け、大阪市漁業協同組合との連携授業を模索。
- 大阪府立西淀川高校から環境教育フェスタの相談を受け、大阪市漁協を紹介。同フェスタで漁師さんの話を聞く会が実現。
- 大阪市立姫里小学校より小学校4年生の淀川の授業の打診をうけ、大阪市漁業協同組合を紹介、小学校で漁師の授業を実施。
- 国立大学法人大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラムで西淀川公害を活用した事前学習教材としてDVD『これからの西淀川区のまちづくり～公害地域の再生を目指して～』を作成。

#### (2) 西淀川での参加型自然・環境調査の実施とまちづくりの担い手づくり

##### ①小学生ととりくむ、自然・環境調査

- タンポポ調べを4/21(土)に開催。参加者は41人。今年は同日の午後に行われる西淀川高校の環境フェスタにあわせ西淀川高校周辺の緑地にて開催。結果は環境フェスタで参加者の子どもたちが発表。
- セミのぬけがら調べを3回開催した。8/9(金)の午前・午後の2回、エルモ西淀川にて、8/21の午前には西淀川図書館で開催した。参加者は全部で156名。
- 「空気のごれ調べ」を12/22(日)に開催(参加者小学生72人と大人15人)。調査結果は大阪市立西淀川図書館で展示。(1/23(木)～3/20(水))
- ハゼ釣り大会を、実行委員会(西淀川区役所その他、西淀川区民生委員協議会、大阪市漁業協同組合、矢倉釣クラブ、子どもの参画べんきょう会、あおぞら財団)で企画運営。10/19花川干潟にて開催。総勢120名参加。写真家の藤井克己氏の協力でハゼ釣り大会の様子を撮影した『親子で楽しむ淀川の自然』展を大阪市立西淀川図書館で開催(11/21～1/23)

##### ②都市部の自然体験を通じた未就学児の環境教育モデルづくり

- 平成25年度公益財団法人高原環境財団の助成団体募集に、『「地域の自然×コミュニケーション」促進事業』を応募、採択された。
- みどり保育園の保護者を対象に、西淀川での子どもたちの自然体験に関するアンケートを実施。『からだで感じるにしよどの自然』発行。
- みどり保育園、よどっこ保育園の4、5歳児を対象に自然体験会を3回実施。

##### ③西淀川の自然・歴史を活かした環境学習の場づくり

- 『中島水道サロン』番外編として『中津川ものがたり』を開催。お話は木村幸雄さん。
- 『中島水道サロン』にて中島大水道の地図を作製、検討中。
- 『日本野鳥の会大阪支部』と共催し、矢倉海岸定例探鳥会(毎月第一土曜日)を実施。

#### (3) 交通環境学習の推進

##### ①フードマイレージ教材の普及

- 岡山版の更新
- 大阪府茨木版を作成
- 宝塚市の環境リーダー講座、茨木市、吹田市の教員養成講座の講師を行った。

#### (4) 近畿圏・環境学習ネットワークづくり

##### ①近畿圏の環境学習の取組を活発にする

- 環境再生保全機構環境再生保全講座(生物多様性保全分野)への企画を応募したが不採択。

## 4. 公害病患者等の健康回復や生きがいづくりを進める活動(環境保健)

### 1) 呼吸リハビリテーションの普及、地域ネットワークづくり

- 2013年度は、2012年度に引き続き、「呼吸リハビリプログラム」の普及啓発、特に西淀川区における病診連携の地域ネットワークづくりを進めた。
- 行政、地域医療機関の参加による検討会を開催した。  
2013年11月22日 あおぞら財団  
2014年3月3日 あおぞら財団
- 医療従事者向け講習会の開催  
第1回 2013年7月21日のぞと診療所(講師:福島氏、田中氏、廣野氏)  
第2回 2014年2月15日 西淀病院(講師:金尾氏)  
医師、理学療法士、作業療法士、看護師、栄養士、薬剤師などスタッフも合わせて約30名が参加
- ポスター・チラシ作成・配布  
「COPD、及び、呼吸リハビリテーション」啓発のためのポスター(200部)、チラシ(2000部)を作成した。作成にあたっては、区内の医療機関に呼吸リハビリへの対応について、アンケートをおこなった。それぞれ医師会や薬剤師会を通じて、医療機関や薬局・薬店への配布をおこなった。
- あおぞらプロジェクト大阪の活動とも連携し、地域の未認定患者を含めたぜん息患者が支え励ましあえる場をつくり、「呼吸リハビリプログラム」などに加え、病気に立ち向かう患者の自己管理を支援する取り組みを行った。また、「楽しく呼吸ニュース」(17号~20号)を2カ月に1度発行し、各診療所に配布した。

開催場所	実施日	参加者数	
千北診療所	5月16日(木)	12人	合計:62人
	7月18日(木)	18人	
	9月19日(木)	10人	
	11月21日(木)	12人	
	1月16日(木)	10人	
姫島診療所	5月24日(金)	16人	合計:70人
	7月18日(金)	14人	
	9月20日(金)	13人	
	11月15日(金)	11人	
	1月17日(金)	16人	
のぞと診療所	4月12日(金)	12人	合計:65人
	6月14日(金)	13人	
	8月9日(金)	9人	
	10月11日(金)	10人	
	12月13日(金)	10人	
	2月14日(金)	11人	
のべ人数 合計			197人

### 2) 「あおぞらプロジェクト大阪」との連携

- 未認定ぜん息患者の救済制度の確立を行政に求める「あおぞらプロジェクト大阪」との連携はあまり進められなかった。



## **5. 日本の公害経験をいかした国際交流(国際交流)**

### **1)日本の公害経験資料の翻訳、及び、情報発信**

#### **(1)翻訳・情報発信**

- 視察や交流、研修受入の際に、配布資料の翻訳をおこなった。

### **2)アジアを中心とした環境NGO等との活動交流**

#### **(1)中国環境 NGO・被害者との交流、中国の公害被害地域への視察**

- 2013年12月2日～5日に、中国全土から多くの環境NGOが北京に集まる集會に参加し、日本の活動の発表、情報交換等をおこなった。(「2013年中国環境保護民間組織年會」、「綠色選択連盟 GCA 研究討論會」)。

#### **(2)韓国をはじめとした東アジア環境NGOとの交流**

#### **(3)海外からの視察受け入れ**

### **3)日本における日中環境問題についての交流会の開催**

#### **(1)日中環境問題サロンの開催**

- 日中の公害・環境問題に関する経験を共有するため、日本において日中環境問題に関するシンポジウム(日中環境問題サロン2014『中国環境NGOの活動を聴く』)を連続セミナーとして開催した(2014年1月22日、23日)
- 中国で活躍する環境NGOメンバーを招聘し、中国の環境問題について報告、日本の市民、専門家やNGO関係者との意見交換をおこなった。

### **4)中国環境NGOと連携した研修事業の実施**

- 中国の環境NGOなどに、日本の公害地域における経験・取り組みをより理解してもらうために、日本現地(大気汚染公害地域:大阪市西淀川区)における研修事業をおこなった(5泊6日、中国環境NGO 6名を招聘、1/21-1/26)。

### **5)公害・環境問題に関する国際協働事業の実施**

- 日中両国におけるNGO同士が互いの取り組みや課題を共有し、環境改善につながる環境NGO協働事業の実施を検討した。

## 重点事業

- 2009年度より、財団10年の蓄積と弱点、財団の使命という視点からアプローチした将来構想に基づく重点プロジェクトを3年間づつ実施してきた。
- 引き続き、2013年度から新たに下記4つの重点プロジェクトを位置づけ、5分野と連携しつつ、特別研究員制度の実施、大学研究室との共同等を進め、多様なスタッフの関わりの中で事業を展開した。

### 1)環境フロンティア講座の開催

- 本講座は、人づくり・人材育成の中心的な取り組みとして、財団の人的つながりを生かした財団独自の質の高い、濃い内容の環境指導者育成を目指し2009年度より開講している。
- 2013年度は、環境フロンティア講座の交通まちづくり部門として、道路環境市民塾の運営委員による企画運営により、『連続講座・交通まちづくりイロイロ(6/29総論編、バス編、7/5自転車編、8/24LRT編。参加者全回で述べ58人。』を開催した。

### 2)資金調達(ファンドレイジング)の強化

- 寄附控除団体の対象になったことをいかして、郵送によるカンパの依頼や、ホームページ、メーリングリストによる寄付依頼をおこなった。結果、2013年度は一般寄附488,160円、指定寄付金114,569円だった。合計602,729円は、予算額600,000円を達成することができた。
- 指定の内訳は、東日本大震災35,233円、ハモン基金(資料館)79,336円で、これとは別にオンラインサイトから今年度は助成金として東日本大震災に34,000円支払があった。
- 2012年度より開始したオンライン寄附サイト(ギブワン)では、東日本大震災への寄附呼びかけ終了後は、一般寄附、ハモン基金(資料館)、あおぞら翻訳基金への寄附の呼び掛けをおこなっているが、こちらへの寄附は今年度はなかった。
- 屋上看板の広告収入を得るため、ホームページにて広告募集をおこなった。今年度中には応募はなかったが、2014年4月から広告を掲示する企業が1社内定した(年間149,128円収入)。
- 機関紙「りべら」への広告掲載料として、2社(浜田化学、あおぞら苑)から広告収入を得ている(3万円/回×2社)。

### 3)西淀川における企業との連携によるエコ・プロジェクトの推進

- エネルギー地産地消・省エネルギー社会をめざし、府内・市内・区内企業との連携によるエコ・プロジェクトの立ち上げについて検討したが、未実施(未利用地や未利用建物へのソーラーパネル設置、工場内・周辺の緑化、エコ見本市など)
- 「夢洲天然ガス発電所」検討委員会へのオブザーバー参加(藤江)。

### 4)東日本大震災支援の取組

- 東日本大震災支援として、11月29日から二泊三日で釜石市を訪ねる「被災地のエコツーリズム体験ツアー」を実施(株式会社岩手県北観光と三陸ひとつなぎ自然学校と連携)。
- その他、被災地支援につながる物販や、他団体の被災地支援イベントに協力した。
- 被災地支援を行っている団体と連携して支援を継続した。

## II. 情報発信・提案活動・交流

### 1. 情報発信

年報の編集は今年もインターンの大学生が担当して、写真を多用した読みやすい紙面を目指した。

また、情報を効果的に伝えていくためにメール通信「あおぞらエクスプレス」を活用した。現在配信先は 2100 件になる。また、新しく関わりが出来た人にあおぞらエクスプレスを送り、あおぞら財団の情報を継続的に届けるようにした。毎月初めに定期配信している「月刊あおぞら」はイベントのお知らせやあおぞらイコバの利用状況等財団の今が見えるように充実させた。

ホームページの更新は、活動報告が中心となっている。フェイスブックとツイッターとホームページを連動させて、月間訪問人数がのべで 30000 アクセス超えるという変化がみられた。

	3月純人数	3月のべ	6月純人数	6月のべ	7月純人数	7月のべ	8月純人数	8月のべ	9月純人数	9月のべ	10月純人数	10月のべ	11月純人数	11月のべ	12月純人数	12月のべ	1月純人数	1月のべ	2月純人数	2月のべ	3月純人数	3月のべ
財団トップページ	904	3,713	852	4,139	865	4,036	749	3,414	860	3,601	819	4,164	999	4,564	946	4,193	1,386	5,915	868	3,934	888	3,919
フードマイレージ	124	400	227	728	227	778	252	867	198	653	239	900	219	823	217	644	250	841	178	629	97	403
資料館エコムース	1	2	17	23	6	7	17	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エコドライブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
菜の花ブログ	5	5	6	6	2	2	7	7	4	4	8	8	7	7	12	12	16	16	10	10	11	11
スタディツアー	45	70	37	52	65	102	51	69	32	42	31	43	31	43	37	51	139	280	47	76	52	71
財団ブログ	8,513	12,922	8,530	13,919	8,869	13,977	8,766	13,052	9,616	14,116	11,234	16,130	12,263	18,471	14,713	20,186	14,975	23,318	10,424	15,132	7,985	12,071
不明なページ	268	288	286	294	208	238	316	362	279	356	256	280	265	275	224	232	174	190	149	164	310	351
合計	9,860	17,400	10,055	19,161	10,242	19,140	10,141	17,771	10,986	18,772	12,587	21,525	13,784	24,183	16,149	25,318	16,940	30,560	11,676	19,845	9,343	16,826

会員情報誌「りべら」は年 4 回発行し、あおぞら財団の活動報告及び地域情報の発信を行った。

### 2. 提案活動

各種計画へのパブリックコメントや選挙時の公開質問状提出などの提案活動、様々な公害・環境問題に関する情報、財団活動に関する情報の発信を進めた。

2013 年 7 月 21 日投開票で実施された参議院議員選挙の投票における参考となるように、「参議院選挙に関する公開質問状」を送付し、回答についてHP上に公開した（2013 年 7 月 13 日）

### 3. 交流

各事業に個別に協力を得ている研究者のネットワーク化をはかり、財団が市民と研究者団体をつなぐパイプ役を果たせるような仕組みづくりをめざしている。

6 月の公害被害者総行動デーへの協力をはじめ各地の公害被害者団体や、地域の環境再生に取り組む団体や市民との交流をすすめた。

また、気候ネットワークや公害環境デーの実行委員としての活動や、日本野鳥の会、ECO まちネットワークよどがわをはじめとする地域の各種団体との協働、連携をおこなった。

### III. 組織

#### (1) 理事会、評議員会

理事会＝第7回（2013年6月）、第8回（2013年10月）、第9回（2014年3月）

評議員会＝第3回（2013年6月）

#### (2) 事務局( 研究員・特別研究員 )

毎週1回の事務局会議、常務会を定期的（月1回）に開催し、事務局全体で情報を共有し、事業の進捗状況や今後の事業展開、組織運営のあり方などを討議しつつ、運営を進めた。2013年3月末で相澤研究員が退職した。

#### (3) 会員

賛助会員については、情報発信や各種イベント・事業等への参加・協力者への呼びかけを進めた。その結果、会員数は合計156（内訳：個人126、学生0、法人15、団体15／2014年3月31日）で、2012年度末の163よりも7減少した。

2013年6月9日には「あおぞら財団会員のつどい2013」を開催した（参加者25名）。今回は3部制で、1部はドキュメンタリー映画「命てなんぼなん？ 泉南アスベスト禍を闘う」の上映、2部はあおぞら財団の活動報告、3部は西淀川区内の食材や被災地商品を使ったランチ交流会をおこない、会員及び関係者との交流の場をもった。

#### (4) ボランティア、アルバイト・スタッフ

だれもが気軽に参加してもらえるよう設けた「ボランティアの日（毎月第一金曜）」を継続。ボランティア参加者は延べ39人である。

研究員の事業をサポートするアルバイト・スタッフについては、定例で10名を雇用している。その他、請け負った事業に応じ臨時に雇用をしている。

#### (5) インターン

8、9月の夏休み期間を中心にしてインターン生の大学生11名受け入れた。そのうち1人は京都精華大学に留学しているバード大学のアメリカ人である。外国人のインターン生の受け入れは初。

#### (6) 視察・研修の受入、講師派遣

大学ゼミなどからの視察・研修の受入を行なった。

また、環境再生・地域再生の取組み、環境学習、NPO、ボランティアなどに関する授業や講演会、講座等への講師派遣を行なった。

### V. 財務・法人体制

財産運用益の増加を目指して、基本財産の一部で社債等の投資信託の購入をおこなっている。2011年7月に公益財団法人化して以後、内閣府には次のとおり書類提出をおこなっている。

2012年3月＝2012年度事業計画・予算／2012年6月＝2011年度事業報告・決算報告

2013年3月＝2013年度事業計画・予算／2013年6月＝2012年度事業報告・決算報告

2014年3月＝2013年度事業計画・予算